

札幌市教員育成指標【特別支援学校・学級、通級指導教室担当教員編】

(平成30年1月17日策定)
(令和8年3月1日一部改定)

求める教員像	観点	ステージ	【養成段階】	ステージ1 【基礎形成期】	ステージ2 【向上・充実期】	ステージ3 【深化・牽引期】
			札幌市が求める教員人生スタート時の姿	学級経営、教科指導、生徒指導等に関する基礎的・基本的な指導力を身に付け、教職としての基礎を固める。	専門性を高め、学級経営、教科指導、生徒指導等に関する実践的指導力の向上を図り、リーダーとしての資質を磨く。	豊富な経験を生かして、全校的な視野に立ち、学校づくりの中心的な役割を果たし組織的な運営力を高める。
				【学級・担当教科等】	【学年・校務分掌等】	【学校全体】
教育者として、深い使命感・倫理観と子どもへの深い教育的愛情を、常にもち続けられている教員	教職の素養	使命感・責任感・倫理観	●教育者として、崇高な使命を深く自覚し、強い責任感や法令遵守の精神、高い倫理観をもっている。			
		情熱・教育的愛情	●札幌を理解し、愛着をもつとともに、教職への誇りと情熱、子どもへの深い教育的愛情をもっている。			
		人間性・コミュニケーション	●豊かな人間性や広い視野、人権尊重の意識をもち、コミュニケーションを図りながら、同僚性を高め、他者との信頼関係を構築している。			
		学び続けようとする意欲	●常に自己研鑽に努め、向上心をもって主体的に学び続けている。			
教育の専門家として、実践的指導力や専門性の向上に主体的に取り組む教員	学習指導	授業構築	子ども一人一人を大切に教育を推進し、子どもの可能性や活躍の場を引き出す実践を学ぼうとしている。	「子どもの声を聴くこと」を大切にしながら、子どもとの信頼関係を構築するとともに、同僚と協働することで子どもの可能性や活躍の場を引き出す取組を実践している。	全ての教育活動において子ども一人一人の困り・思い・願い等に向き合うとともに、同僚性を発揮しながら、子どもが自分のよさや可能性を実感できるように、互いに認め合える取組を実践している。	園・学校だけでなく、地域全体で「子どもの声を聴くこと」を大切にしながら、組織的に「人間尊重の教育」の理念に基づいた取組を推進している。
		指導技術	子どもの実態や障がいに対する理解に基づいて個別の指導計画を作成・活用し、目標を明確にした授業づくりをしようとしている。	特別支援教育の知識や理解に基づいて作成した個別の支援計画を活用し、子どもの興味関心を生かしながら、ねらいを明確にした「分かる・できる・楽しい授業」を構築している。	学校の特色を生かすなど、多様な授業を構築するとともに、特別支援教育についての専門性を発揮し、個別の支援計画の評価を教育課程の改善につなげている。	個別の指導計画のPDCAサイクルを教育課程や授業の改善につなげ、地域や学校の実態を的確に捉えた柔軟な授業を実践するとともに、同僚に適切な対応をしている。
		授業評価・改善	教材提示の工夫や発問等の基本的な指導技術を理解し、実践しようとしている。	効果的な教材提示や発問、ICTの活用等の指導技術を、多くの実践を通して学び、身に付けている。	個々の子どもの特性に応じた教材の開発や指導方法の効果的な活用等の工夫をするなど、確かな指導技術を身に付けている。	豊富な経験から身に付けた確かな指導技術等を生かし授業実践をするとともに、同僚に適切な対応をしている。
		教育課程の編成	授業改善の意義や授業を見直す手だてを理解し、実践しようとしている。	自分の実践を適切に見直し、その成果と課題を明確にした上で、次の実践に活かしている。	授業改善の意識を常にもち続け、より効果的な手だてを考え、次の実践に活かしている。	子どもの育ちの状況から授業を見つめ直し、自らの授業改善を図るとともに、同僚に適切な対応をしている。
	生徒指導	子ども理解	特別支援学校等における教育課程を編成し、自立活動の指導を実践しようとしている。	特別支援学校等における教育課程を編成し、自立活動の指導に当たっては、「各項目の内容」や「各教科等の指導」と関連付けながら進めている。	特別支援学校等における教育課程を編成・改善を図るとともに、自立活動の指導について、基礎形成期の教員に助言している。	各教科等及び自立活動に係る教育課程編成上の課題について十分に理解し、特別支援教育における教育課程の編成・改善を図るための中心的役割を担っている。
		人間関係づくり	障がいの状態や発達の段階等について理解することの大切さを認識し、子どもと積極的に向き合おうとしている。	障がいの状態や発達の段階等に基づいて、子どもの行動等を理解するとともに、子ども一人一人と適切に向き合っている。	障がいの状態や発達の段階等に基づいて、子どもを多面的に理解するとともに、子どもを取り巻く状況を広い視野から捉え、寄り添った対応をしている。	障がいの状態や発達の段階等に基づいて、子どもを多面的に理解するとともに、効果的な手立てを講じて、迅速で組織的な対応をしている。
		組織的な対応	子ども一人一人の話しにしっかり耳を傾けるとともに、進んで関わろうとしている。	情熱をもって学級経営を行うとともに、子どもの声に耳を傾けながら、きめ細かく対応している。	よさや持ち味を生かしながら、ビジョンをもって学年・学級等の運営に当たり、どの子にも適切に対応している。	学校全体に肯定的受容的な関係づくりを広げ、チームとしての機能を高め、適切に対応している。
	ICT活用指導力 (情報モラル・情報セキュリティの指導を含む)	生徒指導の組織的対応の重要性を理解し、実践しようとしている。	家庭との連携を日常的に進め、校内組織を活用し、教職員間で子どもの情報を共有するなど、状況に応じて適切に指導している。	家庭や地域をはじめ、関係機関と連携しながら、校内組織を活用し、状況に応じて適切に課題解決している。	家庭や地域、様々な関係機関と連携し、学校全体の教育活動の活性化や充実に貢献している。	家庭や地域、様々な関係機関と連携し、学校全体の教育活動の活性化や充実に貢献している。
		情報モラル・情報セキュリティを正しく理解し、教材準備や学級事務等に、ICTを適切に活用しようとしている。	授業等におけるICTの効果的な活用場面を計画し実践するとともに、子どもに情報モラル・情報セキュリティを踏まえた活用を適切に指導している。	授業等におけるICTの効果的な活用方法の開発や、子どもの情報モラル・情報セキュリティを含め、情報活用能力の育成を系統的に進めている。	学校教育全体におけるICTの効果的な活用や情報活用能力の育成計画の立案等を中核となって推進するとともに、同僚に適切な対応をしている。	
	等とも連携・協働しながら、課題解決に取り組む教員	マネジメント	学校づくりへの参画	学級担任・校務等について理解し、実践しようとしている。	学校教育目標等を踏まえ、学級経営や教科経営の方針を立て実践している。	学年経営等の組織運営に進んで参画し、学校教育目標の実現に向けて工夫改善を行っている。
危機管理			危機管理の重要性を理解し、危機を察知して迅速な行動をとろうとしている。	安全・安心に配慮した環境について理解し整備するとともに、事故等の発生時には、速やかに報告等を行い対応している。	危機を予測し、未然防止に向けてリーダーシップを発揮するとともに、チームとして早期発見、早期対応を組織的に行っている。	学校安全に関わる未然防止、再発防止を組織的に推進するとともに、緊急時にはチームの中核として対応している。
関係機関等との連携			家庭や地域、関係機関との連携の大切さを理解し、個別的教育支援計画を作成して、教育活動に活かそうとしている。	関係機関の役割を理解するとともに、個別的教育支援計画を作成・活用しながら、家庭や関係機関等と連携・協働して対応している。	個別的教育支援計画を活用しながら、子どもの状況や支援に係る情報を踏まえて、家庭や関係機関等と適切に連携・協働して対応している。	個別的教育支援計画を活用しながら、学校組織として、家庭や関係機関等との円滑なネットワークを形成し、計画的に連携・協働して対応している。
教育課題への協働的な対応			特別支援教育の動向や教育課題に関心を持ち、協働的に行動することの重要性について理解を深めようとしている。	特別支援教育の動向を把握して校内に情報を発信するなど、共有するとともに、協働的に子どもの実態把握や支援策を検討し実践している。	特別支援教育推進に係る課題を把握するとともに、ケースに応じて的確に助言するなど、解決に向けて専門性を発揮し、同僚と協働して効率的かつ適切に対応している。	特別支援教育推進に係る課題の解決に向けて、リーダーシップを発揮するとともに、全校的な視野に立って助言するなど、見通しをもって適切に対応している。